

平成28年度 京都府立宮津高等学校伊根分校 学校経営計画 (実施段階)

平成29年3月

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>智力、人間性、体力が調和した生徒の育成をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒一人一人が安心して楽しく過ごせるクラス・学校作りを行う。 2 すべての生徒に基礎学力を定着させるため、授業のユニバーサルデザイン化を推進する。 3 関係専門機関との連携を強化し、多様な生徒に応じた支援を行う。 4 生徒一人一人の能力・適性を把握し、系統的な進路指導を行い希望進路の実現を図る。 5 人間的な触れあいを密にしたきめ細かな指導により、心豊かな人間性を育てる。 	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業規律を確保し落ち着いた学習環境を保つことが出来た。これは全教職員が同じ目線で指導ができた結果である。 2 教育支援についての研修やスクールカウンセラーとの情報共有が適切に行われ、課題のある生徒について共通理解を深めることができた。 3 多くの体験学習やボランティア活動などを通して生徒の自己有用感を高める取り組みができ、生徒の満足度も高い。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育支援に関する情報共有を一層図る必要がある。そのために教育支援会議や研修をさらに充実させる。 2 生徒の現状を分析し、実態に応じた教育課程の見直しを行いながら、生徒が生き生きとした学校生活を送りながら自己有用感を高める教育活動を創造する。 3 保護者や関係専門機関（ハローワーク、特別支援学校等）との連携をさらに深め生徒の自立支援を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業規律の確保とともに自主的・主体的に取り組む生徒をさらに増やしていくために教材をさらに研究し「学ぶ楽しさ」を感じさせる工夫をする。 2 それぞれの生徒の課題を把握したうえで、教育支援会議や研修を通じ、学習活動の評価方法を研究する。 3 多様な学習歴をもつ生徒に、基礎学力を定着させるため、授業のユニバーサルデザイン化を推進する。 4 保護者や特別支援関係外部機関との連携を深め生徒の自立支援を一層図る。 5 学校行事や体験学習などを通してソーシャルスキルを向上させるような取組をさらに推進する。 6 活発な部活動や資格取得に向けた学習に取り組めるよう生徒のニーズや指導内容を研究する。 7 系統的な進路指導と個別相談を充実させ、卒業後の自立した生活に目標を持たせるような指導を強める。

※以下の表において具体的方策の欄にあるアンケートの A, B の評価については (A:よくあてはまる B:ある程度あてはまる) を表している。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
組織・運営	生徒及び保護者からの信頼を得るために教育活動を充実させる。	<p>学校行事や授業などの教育活動を充実させる。定期試験の作問の工夫や平常点を考慮した評価を一層充実させ、わかる喜びを生徒に感じさせる。また、体験学習を充実させることで社会性や自己有用感を高める。</p> <p>[学校評価アンケートの学校生活に対して満足しているという項目における A+B の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85%以上</td> <td>84～75%</td> <td>74～65%</td> <td>64%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	85%以上	84～75%	74～65%	64%以下	B	<p>・生徒及び保護者による学校評価アンケートにおいて全項目に対する A+B の割合は 81.5%であった。生徒の回答において生徒の授業への姿勢の項目で A+B が 67%とやや低いのが課題である。</p> <p>・特別支援会議及び研修会は 10 回実施した。(3 月までの予定も含む)昨年度以上に教職員の情報共有が図れた。</p> <p>・保護者によるアンケートの回答結果において家庭との連携の項目で A+B の割合が 73%であった。問題が起こったときに家庭へ連絡するだけでなく何気ない日常の連絡の際、生徒の様子のお話などに繋げるなど、日常的な連絡を密にする心掛けが必要である。</p>
	A	B	C	D								
	85%以上	84～75%	74～65%	64%以下								
教員の資質能力向上のための取組を行う。	<p>特別支援教育を充実させるために支援会議や研修を充実させる。</p> <p>[支援会議及び研修の実施回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20 回以上</td> <td>19～10 回</td> <td>9～5 回</td> <td>4 回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	20 回以上	19～10 回	9～5 回	4 回以下	B		
A	B	C	D									
20 回以上	19～10 回	9～5 回	4 回以下									
保護者及び外部の専門機関との連携をさらに強化する。	<p>些細なことでも家庭連絡や家庭訪問を積極的に行い保護者との連携を強化する。また、ハローワークや市役所の福祉課などと連携を密にする。</p> <p>[保護者による学校評価アンケートの家庭との連携が十分であるという項目における A+B の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～83</td> <td>82～76</td> <td>75%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～83	82～76	75%以下	D		
A	B	C	D									
90%以上	89～83	82～76	75%以下									

教務部	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を導入してわかる喜びを実感し学習意欲の向上につなげる。	<p>全ての生徒が学びに参加できる授業や多様な学び方に対し、柔軟に対応できる授業が展開することができきるよう教員のスキルアップを目指す。</p> <p>[教務部独自の授業評価アンケートの授業内容が良いという項目における A+B の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～83</td> <td>82～76</td> <td>75%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～83	82～76	75%以下	C	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果、「授業内容が良い」76.9%、「授業内容に工夫がある」84.6%、「基礎学力が向上した」78%の結果であった。 ・1年を通じて全体的に落ち着いた授業が展開することが出来た。 ・シラバス（年間学習計画・評価方法）を提示することにより学習に対する意欲や関心を高めようと試みたが浸透しなかった。 ・ICTの利用を積極的に行ったが直接学力の向上に繋がったとは言い難い部分があり工夫と検討が必要である。 ・基礎学力講座（計算・漢字）については導入から10年が経っており、その効果を検証し、内容を検討する必要がある。
	A	B	C	D								
	90%以上	89～83	82～76	75%以下								
わかる授業・できる授業のため、ICTを活用した授業を積極的に推進する。	<p>ICTを活用した授業の導入を推し進めることにより、わかりやすい説明、理解を深めさせる説明、興味・関心を高める説明ができるように積極的に導入を推進する。</p> <p>[教務部独自の授業評価アンケートの授業内容に工夫があるという項目における A+B の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～83</td> <td>82～76</td> <td>75%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～83	82～76	75%以下	B		
A	B	C	D									
90%以上	89～83	82～76	75%以下									
基礎学力講座（計算・漢字）を一層充実させる。	<p>個々の生徒の前進率（1年間でどれだけ進めるのか）を向上させるための指導を継続的に行う。</p> <p>[教務部独自の授業評価アンケートの基礎学力が向上したという項目における A+B の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～83</td> <td>82～76</td> <td>75%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～83	82～76	75%以下	C		
A	B	C	D									
90%以上	89～83	82～76	75%以下									

生徒指導部	公衆道徳や学校規則を守り、自立して生活していく力を養う。	公衆道徳や校則を大切にすることを高める。 [学校評価アンケートの校則を守るという項目における A+B の割合] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79 ~ 70</td> <td>69 ~ 60</td> <td>59%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	79 ~ 70	69 ~ 60	59%以下	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 81%の生徒が自ら社会性の向上を目指している。毎朝の挨拶もしっかりとできる生徒が増加した。また、集団生活での規律や秩序を遵守しようとして努力していた。 ・ 55%の生徒しか部活動に満足していなかった。来年度の種目は、生徒の希望を十分検討して決めたい。
	A	B	C	D								
80%以上	79 ~ 70	69 ~ 60	59%以下									
生徒活動やクラブ活動を充実させる。	生徒会活動や部活動の満足度を高める。 [学校評価アンケートの部活動の満足度の項目における A+B の割合] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79 ~ 70</td> <td>69 ~ 60</td> <td>59%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	79 ~ 70	69 ~ 60	59%以下	D		
A	B	C	D									
80%以上	79 ~ 70	69 ~ 60	59%以下									
進路指導部	生徒の進路意識を高め、社会性や職業観の育成、自己理解を促し、希望進路の実現に向けて指導及び支援を行う。	「働く」イメージをつかませるために、アルバイトやインターンシップを積極的に促す。 [インターンシップ制度の活用及びアルバイト経験者の割合] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>90 ~ 80</td> <td>80 ~ 65</td> <td>64 以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	90 ~ 80	80 ~ 65	64 以下	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ アルバイト経験者の割合は 89.3 % (25/28 名) であった。ただ長期アルバイト者の割合は 50.0 % (14/28 名) であることから、いかに定着させるかが今後の課題である。4 年生の進路については、全員希望通りに実現させることができた。
		A	B	C	D							
90%以上	90 ~ 80	80 ~ 65	64 以下									
希望進路の実現に向けて、個人面談の充実と三者間（教職員・保護者・関係専門機関）との連携を深める。 [4 年生の希望進路が実現した人数] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11 名</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>8 以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	11 名	10	9	8 以下	A			
A	B	C	D									
11 名	10	9	8 以下									
保健部	健康安全に関する啓発活動を、	保健だよりの発行により、年間を通じて身近な健康問題		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「保健だよりの発行により、年間を通じて身近な健康問題 								

	年間を通じて行う。 ライフスタイル指導を継続し、 基本的な生活習慣の確立を目指す。	の啓発を行う。 [保健だよりの発行回数] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>20回以上</td> <td>19～15</td> <td>14～10</td> <td>9以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	20回以上	19～15	14～10	9以下	B	B	<p>回を超え、保健委員を活用した指導ができた。今後は生徒の自主的な活動も取り入れて活性化させたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大掃除は毎回重点項目を作り、効率よく実施できた。6回実施。
A	B	C	D										
20回以上	19～15	14～10	9以下										
	校内美化と学習環境の安全を図る。	大掃除と校内安全点検を各学期行う。 [年間の大掃除の回数] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>8回以上</td> <td>7～6回</td> <td>5～4回</td> <td>3回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	8回以上	7～6回	5～4回	3回以下	B		
A	B	C	D										
8回以上	7～6回	5～4回	3回以下										
第1学年	社会のルールを意識し、挨拶・話し方・時間厳守等の習慣を身につける。	早寝早起きや食事など、基本的な生活習慣の定着を図り、挨拶や正しい言葉遣いができるように指導する。 [学校評価アンケートの自律的に生活しているという項目における A+B の割合] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>83%以上</td> <td>82～50</td> <td>49～25</td> <td>24以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	83%以上	82～50	49～25	24以下	A		<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が中学校までの生活習慣の甘い部分を改め、高校生として自律した生活が送れている。不十分な生徒についても引き続き指導していきたい。
A	B	C	D										
83%以上	82～50	49～25	24以下										
第2学年	基礎学力の定着を図るとともに、学校生活に充実感を感じさせる。	授業に積極的に臨む姿勢を育むとともに、クラブ活動や生徒会活動に参加し充実感を感じさせる。 [学校評価アンケートの項目1～4の項目における A+B の割合] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70</td> <td>69～50</td> <td>49以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70	69～50	49以下	B		<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活が充実して楽しいという意見が多い反面、「わかりやすい授業が展開されている」や「部活動が充実している」という項目の評価が低い。 ・授業が一番大事であると再認識した。
A	B	C	D										
90%以上	89～70	69～50	49以下										

第3学年	希望進路の実現に向けて指導する。	<p>4年次の勤労体験学習に向けて、アルバイト先の確保及び定着を図る。進路指導部と連携し、勤労体験先を確定させるとともに、保護者との懇談や生徒との面談を密に行い、希望進路の実現に向けた取組を行う。</p> <p>[3年生全員にアルバイトを体験させ勤労体験学習先を確定する]</p> <table border="1" data-bbox="938 400 1581 493"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5名</td> <td>4名</td> <td>3名</td> <td>2名以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	5名	4名	3名	2名以下	D	<p>・現在、勤労体験学習先を具体的に決定している生徒は1名であり進路部や特別支援と連携を行い体験先が確保できるよう引き続き懇談や面談を重ねていきたい。</p> <p>C ・学校生活に関する全項目における満足度(A+B)は95.5%であったが、生徒が自分や社会について考え、話せる力を育てることに關しては大きな課題があり引き続きHRで取り組みを強化していく必要がある。</p>
A	B	C	D									
5名	4名	3名	2名以下									
	生徒が自分や社会について考え、話せる力を養う。	<p>生徒が自分や社会について考え、話せる力を養えるよう毎日のディリーレポートや社会に関するクイズを毎日行うなどSHRを充実させ、生徒の学校生活への満足度を向上させる。</p> <p>[学校評価アンケートの学校生活に関する全項目におけるA+Bの割合]</p> <table border="1" data-bbox="929 901 1590 994"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>99～90</td> <td>89～80</td> <td>79～70</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%	99～90	89～80	79～70	B	
A	B	C	D									
100%	99～90	89～80	79～70									
第4学年	卒業後の自立した生活に目標を持たせるような指導を強め、希望進路の実現を図る。	<p>希望進路の実現に向けて、個人面談の充実と三者間（教職員・保護者・関係専門機関）との連携を深める。</p> <p>[希望進路の実現人数]</p> <table border="1" data-bbox="922 1176 1583 1268"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11名</td> <td>10名</td> <td>9名</td> <td>8名以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	11名	10名	9名	8名以下	A	<p>・本人、保護者が希望した進路実現に向けて就職対策を実施したり関係機関と連携を図った。その結果、全員の希望進路を実現させることができた。</p>
A	B	C	D									
11名	10名	9名	8名以下									
国語科	漢字をはじめとする言語事項を	漢字と学習習慣の定着を目指すため漢字テストを実施し平		<p>・1年間を通しての漢</p>								

	<p>正しく習得し、文章を正しく読み書きすることで他者の意見を読み取るとともに自分の意見を伝えられるようになる。</p>	<p>均得点率を 80%以上にする。</p> <p>[各学年の漢字テストの平均得点率]</p> <table border="1" data-bbox="931 220 1588 312"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～80</td> <td>79～70</td> <td>69%以下</td> </tr> </table> <p>文章を書く習慣をつけるため感想などの課題を課し提出させる。</p> <p>[課題の実施平均回数]</p> <table border="1" data-bbox="931 493 1588 585"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>30以上</td> <td>29～20</td> <td>19～10</td> <td>9以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～80	79～70	69%以下	A	B	C	D	30以上	29～20	19～10	9以下	<p>C</p> <p>C</p> <p>C</p>	<p>字テストの平均得点率が 76 %であった。また、感想・作文等の課題は 4 学年の平均が 11 回であった。さらに一層の学習習慣の定着を目指し、自習プリントなどを作り、成すべきことを自覚させていく必要がある。</p>
A	B	C	D																	
90%以上	89～80	79～70	69%以下																	
A	B	C	D																	
30以上	29～20	19～10	9以下																	
<p>地歴・公民科</p>	<p>日常生活や社会で起こっていることを理解する土台となるように、生徒の実態に合わせた授業を行い、社会に関心を持たせる。</p>	<p>時事問題や日本、世界の名所などを視聴覚教材も使いながら取り扱い、知識とイメージを結びつけ、授業の満足度を高める。</p> <p>[生徒による授業アンケートの 1～6 の項目における A の割合]</p> <table border="1" data-bbox="931 858 1588 951"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>90 %以上</td> <td>89～71</td> <td>70～51</td> <td>50 %以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90 %以上	89～71	70～51	50 %以下	<p>C</p>	<p>・写真や地図を見せながら説明をするなど、イメージを持てるように工夫した。定期考査の点数が低いため、知識が定着するように働きかけることが今後の課題である。</p>								
A	B	C	D																	
90 %以上	89～71	70～51	50 %以下																	
<p>数学科</p>	<p>生徒個々の学力・能力を把握・分析し個々の実態に合わせ授業を展開する。</p>	<p>多様な学習歴をもつ生徒に基礎学力を定着させる為、授業のユニバーサルデザイン化を推進し、授業の充実を図る。</p> <p>[生徒による学校評価アンケートの 1～6 の項目における A+B の割合]</p> <table border="1" data-bbox="931 1222 1588 1315"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>90 %以上</td> <td>89～70</td> <td>60～50</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90 %以上	89～70	60～50	49%以下	<p>A</p>	<p>・ A+B の割合が 98 %であり、充実した授業が展開できていると実感している。意欲に欠ける生徒への声掛けに課題が残る。</p>								
A	B	C	D																	
90 %以上	89～70	60～50	49%以下																	

理 科	<p>自然の物事・現象に対する興味や関心を喚起し、科学を学ぶ意義や楽しさを実感させる。</p>	<p>科学に対する意欲・関心を図るため、授業の理解度を小テストで確認する。</p> <p>[年間を通して実施した平均回数で評価]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>30回以上</td> <td>29～20</td> <td>19～10</td> <td>9回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	30回以上	29～20	19～10	9回以下	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、小テストに取り組み、各科目平均19回実施した。復習や授業の定着に繋げることができた。 ・年間を通して、平均7回の実験を実施した。ワークシートを工夫し、科学的・論理的に考察できるように努めた。
	A	B	C	D									
30回以上	29～20	19～10	9回以下										
<p>目的意識をもって観察、実験等を行い科学的探究心を養う。</p>	<p>生徒が自ら考え、主体的に実験・観察に取り組み、科学に対する見方や考え方を養う。</p> <p>[年間を通して実施した平均回数で評価]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>15回以上</td> <td>14～10</td> <td>9～5</td> <td>4回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	15回以上	14～10	9～5	4回以下	C			
A	B	C	D										
15回以上	14～10	9～5	4回以下										
保健体育科	<p>体育嫌いをなくし、生涯を通じてのスポーツ活動の動機づけとなるよう、意識を高める。</p>	<p>身体を動かすことの楽しさを味わわせ、「体力の向上」「スポーツマンシップの向上」を図り、心技体ともに成長させる。</p> <p>[保健体育科の独自年度末アンケートの運動能力が向上したという項目におけるA+Bの割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～70</td> <td>69～60</td> <td>59以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～70	69～60	59以下	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・種目によって偏りがあるものの、意欲的に取り組ませることができた。 ・本年度は授業中の怪我が多かった。減少するよう努めていく。
	A	B	C	D									
80%以上	79～70	69～60	59以下										
<p>生涯を通じた健康づくりをすすめていくために栄養・運動・休養などの基本的な生活習慣の大切さを学ばせ意識を高める。</p>	<p>食事、適度な運動や休養、身体や精神のケアの大切さを学ばせ、実践させる。</p> <p>[保健体育科の独自年度末アンケートの基本的な生活習慣の大切さがわかったという項目におけるA+Bの割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～70</td> <td>69～60</td> <td>59以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～70	69～60	59以下	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に夏以降、大幅に肥満が解消された生徒がいる一方で、改善できない例が多数あり、健康管理の大切さを訴えていく。 		
A	B	C	D										
80%以上	79～70	69～60	59以下										
芸術科	<p>授業を通して、芸術を愛好する心情を育て、感性と表現力を高める。</p>	<p>鑑賞と表現の調和のとれた充実を図り、授業における満足度を上げる。また、芸術の魅力に気づかせる授業展開を心掛ける。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・器楽や歌唱指導については、ややムラがあったが概ね意欲を持つ 								

		<p>[授業アンケートの項目 1～6 における A+B の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>99%以上</td> <td>98～93</td> <td>92～86</td> <td>85以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	99%以上	98～93	92～86	85以下	B	<p>て取り組ませることができた。私語等の授業態度の指導に課題が残る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術については制作意図に応じて構想を練り根気よく制作させることができた。
A	B	C	D									
99%以上	98～93	92～86	85以下									
英語科	<p>英語学習に前向きに取り組む態度を育て、各学年で「～できる」事柄を増やして学習の定着を図る。</p>	<p>わかる授業の工夫に努め、生徒の理解度を確認しながらコミュニケーション力を育成し、授業の満足度を高める。</p> <p>[授業アンケートの項目 1～6 における A+B の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95%以上</td> <td>94～85</td> <td>84～70</td> <td>69%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	95%以上	94～85	84～70	69%以下	A	<p>・分かり易さと基礎力の定着を主眼に取り組めた。英語の発話を増やし、コミュニケーション力の育成を心がけた。課題未提出者への指導を強化する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英検合格は 4 級と 3 級の一次のみであった。また、準 2 級挑戦者があり、意欲のある生徒には大きな励みとなった。
	A	B	C	D								
95%以上	94～85	84～70	69%以下									
<p>検定試験の受験を奨励し、合格に必要な学力を養成する。</p>	<p>実用英語技能検定試験に合格する力を育成する。</p> <p>[検定試験の受験者に対する検定合格率]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～80</td> <td>79～70</td> <td>69%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～80	79～70	69%以下	D		
A	B	C	D									
90%以上	89～80	79～70	69%以下									
家庭科	<p>日常生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>	<p>授業のユニバーサルデザイン化の推進や、実習や実験等を効果的に取り入れ、生徒に学ぶ楽しさを感じさせるとともに生徒の理解度を高める。</p> <p>[授業アンケートの項目 1～6 における A+B の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>99～90</td> <td>89～80</td> <td>79%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%	99～90	89～80	79%以下	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の UD 化を積極的に進める等、生徒の授業理解度を高める工夫をした。その結果 A+B の割合は 99.4%であった。ただ A 評価だ
A	B	C	D									
100%	99～90	89～80	79%以下									

					けに限ると 62.8%であったことから、授業満足度を上げるべくさらなる工夫が必要である。								
情報科	パソコンや情報器具を活用し、いろいろなソフトが活用できる能力の育成に努める。	<p>「情報と社会」の教科指導を通して様々なアプリケーションソフトを活用する実習を行う。プレゼンテーション指導の充実や表計算ソフトを活用できる力を養う。</p> <p>[授業アンケートの項目 1～6 における A の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100 %</td> <td>99～90</td> <td>89～80</td> <td>79%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100 %	99～90	89～80	79%以下	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価の A+B の割合は 91.3 %であった。さらに、プレゼンテーション能力や表計算ソフトを利用して数値処理能力を高めていきたい。 学年末に向けてインターネットにおけるコミュニケーションの特徴と危険性について学び、情報社会の課題や対処方法について自分の意見をまとめる課題を生徒に課したいと考えている。
	A	B	C	D									
100 %	99～90	89～80	79%以下										
情報モラルの育成やネット依存・スマホ依存などの情報社会の諸課題に対応できる力を養う。	<p>インターネットにおけるコミュニケーションの特徴と危険性について考え、情報社会の課題や問題それに対する対処法に関して自分で適切な意見をまとめることができる。</p> <p>[情報社会の課題に対する作文の提出割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100 %</td> <td>99～90</td> <td>89～85</td> <td>84%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100 %	99～90	89～85	84%以下	B			
A	B	C	D										
100 %	99～90	89～85	84%以下										
商業科	基礎的な簿記の知識を磨き、簡単な財務諸表を作成する技術を身につける。	<p>「簿記」の教科指導を通して理解を深めさせる。テキストノート及び問題集・プリントで理解の徹底を行う。</p> <p>[授業アンケートの項目 1～6 における A の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100 %</td> <td>99～90</td> <td>89～80</td> <td>79%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100 %	99～90	89～80	79%以下	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態にあわせた授業づくりを検討してきた。授業評価は A+B の割合は 91.3 %であった。さらなる授業改善に取り組んでいきたい。
	A	B	C	D									
100 %	99～90	89～80	79%以下										
検定試験に挑む学力を養成する	授業や放課後の学習指導の時間を通して簿記実務検定・ビ												

		<p>ビジネス文書検定・電卓検定・情報処理検定などの各種検定に合格する力を育成する。</p> <p>[年度末の商業に関する検定試験の受検者に対する検定合格率]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100 %</td> <td>99 ~ 90</td> <td>89 ~ 80</td> <td>79 %以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100 %	99 ~ 90	89 ~ 80	79 %以下	D	C	<p>・ビジネス文書検定 3名受験中 3名合格、電卓検定 5名受験中 2名合格、情報処理検定 1名受験予定であり合格率は 62.5 %であった。さらに密な受験指導が必要である。また、受験者の拡大も必要である。</p>
A	B	C	D										
100 %	99 ~ 90	89 ~ 80	79 %以下										
総合的な学習の時間	<p>総合的な学習の時間を通して確かな基礎学力と豊かな心を育む力を養う。</p>	<p>基礎学力講座と体験学習を車の両輪として位置づけ、特に体験学習において地域や生活としての衣食住にかかわるメニューを積極的に取り組み伊根町の良いところを感じて豊かな心を育む力を育成する。</p> <p>[教務部独自の授業評価アンケートの総合学習における A+B の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>89 ~ 83</td> <td>82 ~ 76</td> <td>75%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	89 ~ 83	82 ~ 76	75%以下	A		<p>・基礎学力講座、体験学習をすべて実施することが出来た。アンケートでは「総合学習における満足度」90 %を超えている。今後より一層工夫して全員が達成感や充実感を感じるものにしていく必要性がある。</p>
A	B	C	D										
90%以上	89 ~ 83	82 ~ 76	75%以下										

学校関係者評価委員会による評価	<p>全校生徒及び保護者対象に実施した学校評価アンケートの結果によると、伊根分校で展開されている教育活動の全ての項目について81.5%の生徒及び保護者が肯定的な評価をしている。このことから大変満足度の高い学校生活を送っていることがうかがえる。また、ホームページや伊根分校の広報紙を見ると、地域の特産を研究したり、調理や試食することを通して地域理解を深める活動が盛んにされている。このような取り組みは、郷土のもつ素晴らしさを再認識することができ、郷土愛に繋がる大変有効な取り組みであると評価したい。また、今年度はその取り組みを新聞に掲載される機会が多く、地域と共に成長する伊根分校というイメージが強くなったと感</p>
-----------------	--

じられる。今後も地域に根ざした特色ある取り組みがさらになされ益々活動が発展していくことを期待する。

次年度に向けた改善の方向性

- 1 多くの体験学習を通して郷土が持つ強みを研究し、地域の活性化に繋がる提言を発信できるようにする。
- 2 落ち着いた高校生活が維持でき、さらに笑顔の絶えない活気ある学校を目指して教職員と生徒が一緒になって学校を盛り上げていく学校体制を構築する。
- 3 アクティブラーニングを有効的に活用し実践することで生徒の主体性を育てる教育活動を展開する。
- 4 活発な部活動にするために生徒のニーズや指導内容を研究し実践する。
- 5 卒業後の自立した生活に繋げるための意識づけや進路指導を個人指導を強化することで充実させる。